

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29114 プログラム名 見て触って楽しむ博物館・美術館入門

～キュレーター（学芸員）の仕事と日本画の魅力～



開催日：平成29年8月21日(月)

実施機関：東海大学

(実施場所) 湘南キャンパス松前記念館

実施代表者：篠原 聡

(所属・職名) (課程資格教育センター・准教授)

受講生：小学 5,6 年 12 名・中学生 16 名・高校生 4 名

関連 URL: http://www.u-tokai.ac.jp/about/campus/shonan/news/detail/post_853.html

【実施内容】

学校とは異なる博物館施設で、文化・芸術と触れ合いながらキュレーター(学芸員)の仕事や日本画の魅力を体験的に学ぶプログラムです。作品保存の科学など、理科や生物に関連する「学び」にもチャレンジします。

1. プログラムの実施で留意、工夫した点

講義と実習の2部構成とし、講義を受けてから実習に参加することで体験学習を深め、受講生の関心や集中力を持続できるように工夫しました。ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の実践など、ミュージアムの最先端の活動も紹介しました。実際に民族資料に触る体験プログラムのほか、ミュージアム IPM(総合的有害生物管理)についても体験学習を導入し、資料の活用と保存の重要性をわかりやすく伝えました。午後の実習では、学芸員による掛軸の取り扱い方や日本画の実演など、日本画についてより身近に知ってもらうレクチャーを導入しました。学芸員が実演することで、専門的な内容をわかりやすく体験的に学ぶように工夫し、受講生への肌理の細かい指導もできるように配慮しました。また、時間内に豆うちわを完成できるように、画材等の事前準備にも配慮し、事前に受講生に連絡して描く題材をあらかじめ用意してもらいました。

2. 当日のスケジュール

- 9:40-10:00 受付
- 10:00-10:20 開講式(あいさつ、科研費の説明、オリエンテーション)
- 10:20-10:40 講義①「触って驚く博物館」 広瀬浩二郎(国立民族学博物館・准教授)
- 10:40-11:20 体験プログラム①「資料に触ってみよう!!」 ※終了後 10 分休憩
- 11:30-11:50 講義②「学芸員のしとご」 篠原聡(東海大学課程資格教育センター・准教授)
- 11:50-12:30 体験プログラム②「資料保存の科学」
- 12:30-13:30 (お昼休み) ※学芸員や研究者、学生と一緒に昼食を食べました
- 13:30-13:50 レクチャー①「掛軸の取扱・鑑賞」 今西彩子(鎌倉市鍋木清方記念美術館・学芸員)
- 13:50-14:10 レクチャー②「日本画の絵具の話」 後藤秀聖(膠文化研究所会員) ※終了後 10 分休憩
- 14:20-14:40 レクチャー③「日本画の実演」 小林絵美子(藤沢市アートスペース・学芸員)
- 14:40-16:10 実習「日本画にチャレンジ 豆うちわに日本画を描こう」
- 16:10-16:30 クッキータイム(研究者や学芸員と討論、質疑応答)
- 16:30-17:00 修了式(アンケート記入、未来博士号授与、写真撮影) 朝倉徹(課程資格教育センター所長)
- (17:00-17:20 ※希望者のみ松前記念館のバックヤードツアーを実施しました)



3. 実施の様子

★午前:オリエンテーション・講義・体験プログラム



科研費の説明(東永祥氏)



触って驚く博物館(広瀬浩二郎氏)



作品保存の科学(篠原聡)



アイマスクをつけて民族資料に触る体験も!!



実体顕微鏡で虫観察



博物館内の環境調査



★午後:レクチャー・実習(豆うちわに日本画を描こう)・クッキータイム・修了式・記念撮影



日本画(掛軸)の取り扱い方と鑑賞(今西彩子氏)



日本画の絵具の話(後藤秀聖氏)



初めての日本画体験



日本画の実演(小林絵美子氏)



砂子蒔きにもチャレンジ



豆うちわに日本画を描く!!



朝倉徹所長より未来博士号授与

プログラム全体を通して、子どもたちが、普段あまり接する機会のない日本画の魅力や、モノを守り伝える学芸員の仕事の一端を実感することができた有意義な機会になったと考えます。民族資料に触る体験など、ユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)の体験プログラムは、年齢や性別、障害の有無を問わず、多様な文化や社会のあり方に、子どもたちが関心を持つきっかけにもなったのではないかと考えています。

4. 事務局との協力体制

事務局で委託費の管理や支出報告書の確認、日本学術振興会への連絡調整、提出書類の確認・修正等を行っていただきました。また、物品購入、協力者・アルバイト学生への謝金、受講生の保険加入等の事務手続き、学内関連部署との連絡調整、会場の設営、アンケート集計などの協力を得ました。

5. 広報活動

事務局と連携し、近隣の小中学校を中心にチラシ・ポスターを配布しました。また広報課とも連携し、学内博物館施設等へのチラシ・ポスターの配布、掲示、大学 HP への募集案内の掲載を行い、後日、プログラムの実施報告も大学 HP に掲載しました。近隣の中学校教員にも周知し、実際に美術の教員 1 名が引率の立場で参加しました。70 名以上の応募(定員を 24 名から 32 名に変更)があり、広報活動に一定の成果がみられました。

6. 安全配慮

本プログラムの内容では、受講生に危険がおよぶ場面は想定しにくいと考えていましたが、万全を期すべく、安全面における具体的な配慮・対策として、体験プログラム等をグループワークとし、各グループに講師陣や学生スタッフが対応できるような人員体制で臨みました。また、受講生、協力者、アルバイトについては、大学側で傷害保険に加入いたしました。

7. 今後の発展性、課題について

受講生(小学生 5,6 年生・中学生・高校生)のアンケートの主な感想は次の通りです。「うちわに絵を描くのが楽しかった。アイマスクをつけて物にふれたりして何かを考えたりするのも楽しかったです。またやりたいです😊」「自分が今までしなかったようなことがたくさんあったけれど、疑問に思っていたことがよくわかりました」「日本画というものの自体は見たこともあったが、おく深くわしいところまでは知らなかったのととても興味深く楽しかった」「うちわづくりがとても楽しかった!! また機会があればぜひもう一度つくりたい!!」「今日ははじめて体験できたことがたくさんあってとても楽しかったです」等の好意的な意見や感想を頂き、「また参加したい」との声も多数あり、充実したプログラムが実施できたと感じています。保護者の方からも「アイマスクをつけて美術品を触ったり、本物の日本画を間近で観たり親の私もとても楽しませて頂きました。全部一緒に参加してやりたいプログラムばかりで、子どもも楽しめたと思います」「目かくして物にさわる授業は大変興味深かった。とても良い経験だったと思う」「岩絵具の使い方を実際に見ることができたり、なかなか扱う機会の少ない顔彩を扱えたのは良かったです。学芸員の仕事についての説明もとてもわかりやすかったです」「どの先生のお話も興味深く、多様な内容でとてもよかったです」「大学生がお手伝いをしてくれて、身近(親近感)に感じたかも」「学芸員の仕事や日本画について、親子共々学ぶことができありがとうございました。夏休みの良い体験になりました。ぜひ今後続けて頂きたいと思いました」等の感想を頂きました。学生がスタッフとして子どもと接する機会を得たことも貴重な成果であったと思います。他方、「多くのスタッフさんに丁寧におしえて頂き、ありがとうございました。プログラムも多様にわたり、楽しめましたが、学芸員の仕事に絞って、もっと知りたいと思いました」「内容が充実していて良かったが、すこし長いように感じました。掛け軸や日本画を実際に見られてとても良かったです」との感想もありました。今後の発展性としては、学芸員の知られざる仕事内容を明快に伝えるプログラムの開発が求められます。今回、新たにユニバーサル・ミュージアム(誰もが楽しめる博物館)に関するプログラムを導入し、応募人数が定員を大幅に上回ったことも受け、手ごたえを感じております。より多くの子どもたちに実物教育の楽しさや日本画の魅力を伝える体験プログラムの構築を目指します。

【実施分担者】

朝倉 徹 課程資格教育センター・所長

【実施協力者】 6 名

【事務担当者】

東永祥 研究支援課・職員